

復興ありがとうホストタウン（第六次）自治体について

平成 30 年 9 月 7 日

自治体 (相手国等)	受けた支援の概要	取り組もうとする事業の概要
宮城県加美町 (チリ)	<ul style="list-style-type: none"> ・加美町は東日本大震災で被災した南三陸町を始めとする沿岸部の住民 300 人弱を受け入れるとともに、加美町の職員 1 名を平成 24 年 4 月から平成 29 年 3 月まで 5 年間南三陸町に派遣し、復興の支援を実施した。 ・その間、両町民の交流が促進され、今でも南三陸町へ戻った方と支援した方の交流が継続している。 ・一方、南三陸町は、1960 年のチリ地震以来、チリ共和国と友好関係を結んでいる。1991 年には絆の証として南三陸町がチリ人の彫刻家に依頼して創ったモアイ像が志津川地区の松原公園に設置された。しかし、東日本大震災によりモアイ像が流失。このことを知った日智経済委員会チリ国内委員会が新たなモアイ像を南三陸町に送ることを検討し、2013 年 5 月にイースター島で作られたモアイ像が南三陸町に贈呈された。 ・こうした南三陸町に対するチリからの支援への感謝を表す取組を、震災時から南三陸町との交流を続ける加美町が主体となって実施することとする。 ・ 	<p>南三陸町との交流も含め加美町として以下の事業の実施を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チリのパラ選手と障がい者が、パラカヌー等を通じて交流。それをきっかけとして毎年 10 月に開催される「Sea to Summit」にチリの方々も参加いただくよう働きかける。また、大会時のチリのパラカヌー選手の事前合宿を受け入れる。さらに、チリの選手が学校を訪問し、スポーツ交流や出前授業を実施してもらう。 ・バツハホールで開催されるイベントにチリ選手を招待する。また、チリ国民とともに、同ホールを活用したイベントを計画する。また、加美町食の文化祭に、チリの食材や伝統料理の提供を企画する。 ・大会への応援団の派遣や町内にパブリックビューイングを設置するなど、チリ選手が好成績を収められるよう町ぐるみで応援体制を作り上げる。 ・大会終了後、本町及び南三陸町を訪問してもらい、町民との交流や南三陸町に設置されたモアイ像をご覧いただく。